

1. 地形分類

2. 自然地域の名称

1. 地形分類

日本列島の地形は起伏に富み、火山地・丘陵をふくむ山地の面積は国土の約 75% をしめる。山地は谷によって細かく刻まれ、山地の斜面は一般に急傾斜である。山地の高度は中部地方で 3,000 m を越える。氷河時代に氷河の侵食・堆積作用によって形成された小規模な氷河地形が日高山脈や飛騨山脈に断片的に分布する。

台地・段丘は各地に分布し、おもに畑として利用される。火山灰砂台地は北海道、九州地方に多く分布し、南九州でシラス台地と呼ばれる。

平野、盆地の多くは小規模で山地の間に点在する。平野、盆地のほとんどは河川の堆積作用によって形成されたものである。河川は山地を離れて低地に向う谷口のところに砂礫を堆積して円錐形の扇状地を形成する。この地形は東北地方や中部地方にかなり広く分布する。河川の下流部では洪水時に河川からあふれた砂質の堆積物が、周囲よりわずかに高い自然堤防と呼ばれる微高地を形成し、この上に集落や道路などが立地する。

これらの低地は生産活動を展開する上でもっとも重要な土地であり、河川改修、耕地整理、宅地造成、埋立、干拓などの人工改変を受けることが多い。

〔凡例と作図の要点〕

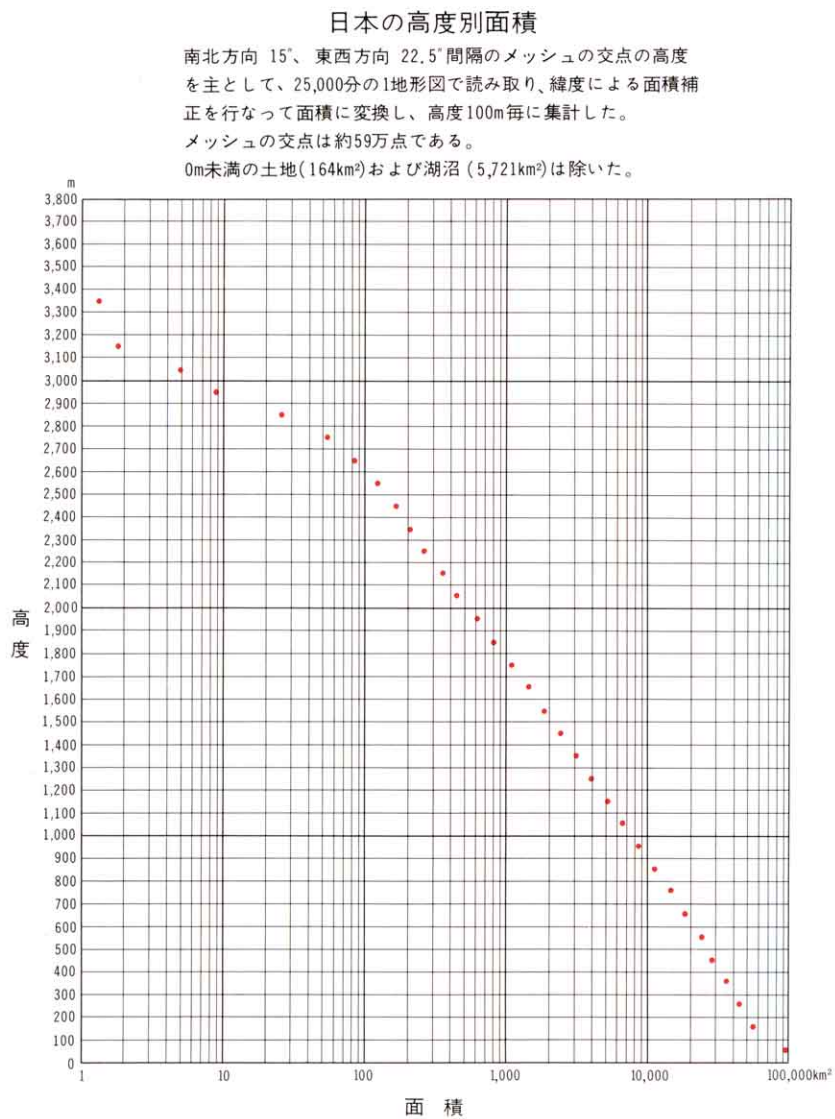
山地・丘陵

大起伏山地：起伏量 600 m 以上の部分が卓越する山地。

中起伏山地：起伏量 200～600 m の部分が卓越する山地。

小起伏山地・丘陵：起伏量 200 m 以下の部分が卓越する山地と丘陵。

なおここでの起伏量は南北方向 1'、東西方向 1.5' 間隔の区画内の最高点と最低点の高度差で、経済企画庁の起伏量図を資料として用いた。



火山地

火山急斜地：第四紀火山の急な原面と開析谷。

火山緩斜地：いわゆる火山の裾野を代表する緩やかな火山斜面。泥流地形、溶岩流地形、火山山麓扇状地をふくむ。

台地・段丘

溶岩台地：溶岩からなる台地状地形。第四紀以前に噴出したものをふくむ。

火山灰砂台地：火砕流堆積物からなる台地。

カルスト台地：石灰岩地域における溶食地形。隆起さんご礁をふくむ。

河成および海成の台地・段丘（高位）：開析扇状地、隆起海岸平野、河岸段丘、海岸段丘の高位のもの。

河成および海成の台地・段丘（低位）：開析扇状地、隆起海岸平野、河岸段丘、海岸段丘の低位のもの。

低地

扇状地：沖積扇状地。傾斜のゆるい扇状地をふくむ。

氾濫原：沖積平野のうちやや高燥な部分。

三角州・後背湿地：沖積平野のうち低湿な部分。

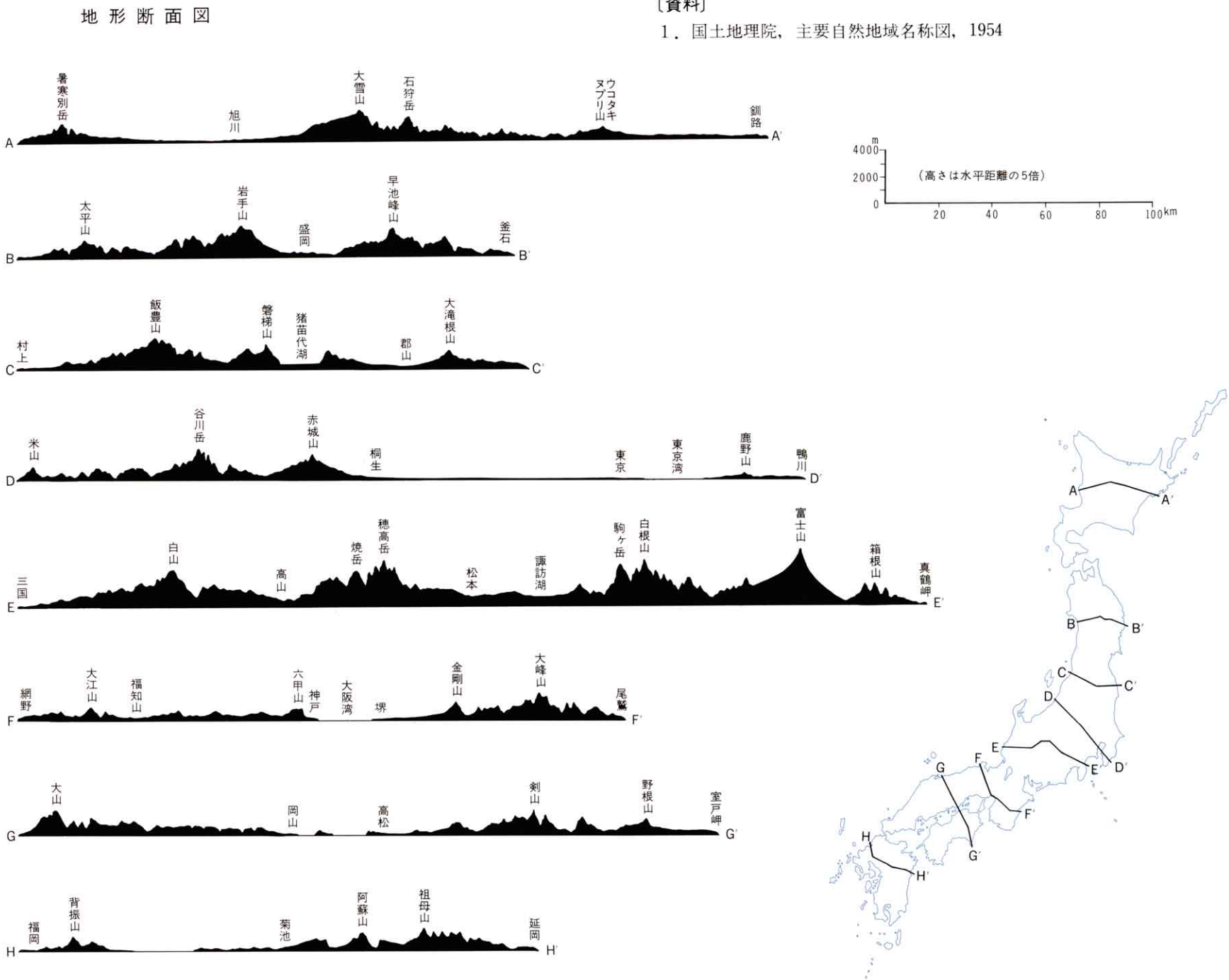
砂丘・砂州：沿岸部の堆積地形で砂または砂礫よりなる。

〔資料〕

1. 経済企画庁，1:500,000 土地分類図（地形分類図），1967

2. 国土地理院，1:800,000 土地分類図，1958

3. 経済企画庁，1:1,160,000 起伏量図，1969



2. 自然地域の名称

〔凡例と作図の要点〕

この図は、山地、平地、半島、諸島など、ひとつの地域的単位として考えられるひろがりをもった場所のうち、おもなものの名称を表示したものである。名称は、長年にわたり広く慣習的に使用されているものを採用した。これらの名称は、国土地理院発行の 20 万分の 1 地勢図、またはそれより小さい縮尺の地図に注記するために定められた。しかし一般にはこれらと違った名称がときどき用いられる。

この自然地域の種類と定義はつぎの通りである。

山地：地殻の突起部の集合体をいう。

山脈：とくにいちじるしい脈状の山地をいう。

高地：起伏がそれほど大きくなく、谷がよく発達した全体として表面の平坦な山地をいう。

高原：起伏が小さく谷が発達しない表面の平坦な山地をいう。

丘陵：谷がよく発達し、頂部が丸みをおび、原則として稜線が定高性を示す山地で低地との比高は約 300 m 以下である。

平野：起伏がほとんどなく、平坦な低地のひろがる土地をいう。

盆地：周囲を山地または丘陵によって囲まれた平坦な土地をいう。

台地：平野と盆地のうち、一段と高い台状の土地をいう。

半島：三方を海で囲まれ、一方が陸続きの土地をいう。

諸島：ふたつ以上の島の集団をいい、列状をなすものをとくに列島という。

なお、野、台、原などの自然地域の種類を意味する語で終る名称は、台地、高原などの呼称をつけない。

〔資料〕

1. 国土地理院，主要自然地域名称図，1954



